

新しい地震対策を考える専門家向けセミナー

〈セッション9 建造物の損傷評価〉

今世紀に入り、毎年のように、従来の統計を数倍上回る豪雨、台風、地震、洪水、土石流、火砕流等が発生し、多くの人命と財産が失われています。各種の統計から、21世紀末には、気温、海面温度がさらに上昇し、生活と産業に壊滅的な被害を生ずると予測されています。建物、インフラ施設、都市に対して、新たに総合的な災害対策を講じない限り、被害はさらに大きく壊滅的なものになりかねないと考えられます。

新耐震基準は大地震に対しては、ひびか入って使えなくなってもよい、倒壊しなければよいという基準です。熊本地震では、耐震化率100%の熊本市周辺において、病院、避難所が使用できなくなったことによる災害関連死が直接死の4倍を超える事態となりました。7割以上のマンションが被害を受け、1年以上たっても補修工事ができないマンションも多数ありました。従来の数倍の地震動に対して安全性と使用継続性を確保する新しい方法が求められています。

本セミナーでは、新しい災害対策の一例として、しなやかな弾性材料を用いる補強技術SRFと、GPSを備えた高性能計測器を多数用いる診断技術(MTD)をご紹介します。理論的背景、適用事例、東日本大震災、熊本地震等での実証についてご報告しております。本セッション9では、地震による建造物の損傷評価法についての研究成果を中心にご紹介いたします。切迫する直下型地震、海洋型の巨大地震に対して、今できる対策を見出し実施することにつながり、将来に向けて、総合的な災害対策、新たな街と国の姿をお考えいただく機会となることを願っております。

日時

2021年10月14日(木)
セミナー：13:30～14:30
個別相談：14:40～

テーマ

〈セッション9〉
建造物の損傷評価

過去開催分は当社ホームページよりご視聴いただけます。
ご視聴はこちら https://www.sqa.co.jp/opinion/seminar_application.html

開催方法

オンライン (ZOOM)

申込方法

当社ホームページの専用フォームよりお申込みください。
お申込みはこちら https://www.sqa.co.jp/opinion/online_seminar_form.html



講師
構造品質保証研究所株式会社
代表取締役社長

五十嵐 俊一

工学博士
日本建築学会会員
地盤工学会正会員
コンクリート工学協会正会員

